

北海道大学総合博物館 ボランティア ニュース

No. 51 2018. 12

高倉新一郎先生小伝—息子が語る高倉新一郎 (第3回) 人間 高倉新一郎	高倉 嗣昌 -----1
フローラ ヤポニカ 北海道植物画展 「元号」の由来	福澤 レイ・早川 尚 -----5 久末 進一 -----6
むかわ町穂別博物館の被災状況の確認と骨格標本修復の試み “牛飼いが歌よむ時に世の中の新しき歌大いにおこる”	太田 晶 -----7 稲場 良雄 -----8
水辺の昆虫ミニ展示	山本 ひとみ -----9
憩いの中庭を目指して～構内の木材利用～	近藤 縁・星野 愛花里 ---10
札幌市青少年科学館を訪問しました	本多 丘人 -----11

特別寄稿

高倉新一郎先生小伝—息子が語る高倉新一郎 (3) 人間 高倉新一郎

公益財団法人ふきのとう文庫代表理事・北海学園大学名誉教授 高倉 嗣昌

はじめに

誰でも成長の過程でその人のパーソナリティ形成に影響を及ぼした要因は多々あるのですが、高倉新一郎の場合、強く考えられるものを順不同で列記してみました。

1. 明治という時代
2. 開拓途上の十勝の大地
3. 父高倉安次郎、母かつ
4. 高倉商店と近江商人魂
5. 帯広小学校
6. 札幌一中
7. 北海道帝国大学時代の学友、研究仲間
8. 北海道帝国大学時代の恩師

テーマ別人間関係

1. 健康

本人は若い頃あまり丈夫ではなかった (旧制中

学五年まで行った原因の一つ) と言っていますが、開拓途上の極寒の地十勝で育っただけあって、野性味があり、なんでも食べ、晩年こそ、交通事故に遭ったり、高血圧・前立腺肥大・腎盂炎等に悩んでおりましたが、極めて健康に見えました。

ラフに見える反面血液型はA型で、大変緻密なところもありました。

米寿のお祝いをするまで生き、死因は以前から医師が予言していた虚血性心不全でした。

2. 少年期の家庭生活

中学で札幌に出て来て親戚宅に下宿しましたので、少年期の家庭生活は小学校までです。家が商店だったため大変忙しく、年端も行かぬ子守の背中に一日くりつけられていることが多かったせいか、二人の弟は夭折しています。その中で生き残ったわけです。

食事もいつもバタバタした中だったらしく、マナーなども殆どないに等しかったことは長じてからの食物の食べ方を見てもわかります。

3. 学業成績

学業成績にも起伏がありました。帯広から札幌一中に合格したのは良かったのですが、中学校低学年の頃は授業について行けず、進級が危ぶまれたようです。それをなんとか乗り切り、その後は中学五年まで行ったことで、帝国大学予科の時になるとかなり余裕があったと語っています。

4. 兵役

徴兵検査では近眼だったため、乙一種合格だったようで、急に召集は来ないと判断し、兵役志願をしなかったのです。もし召集されれば、幹部にはなれず一兵卒からだったのですが、結局「赤紙」は来ませんでした。

5. タバコ・酒

タバコは若い頃いたずら程度に吸ったことがあるようですが、私が見たのはけむたそうに吸っていた一度だけです。

酒となりますと、若い頃ビヤホールの大樽を空にしたという「伝説」もあったようですが、私を知る限りでは酒は好きですがあまり強くはありません。飲むとワーと能弁になり寝てしまうことが多かったです。

自宅での個人的な酒は、九才年上で兄貴のような叔父高倉定助と飲んで気炎をあげていました。

私が家族と以外で父と飲んだのは、学生の頃ゼミ合同コンパの時、学生多数で二次会にススキノまで行き、奢ってもらったことが一度あるだけです。

6. 話述

それと関連した話術ですが、歴史学者だったこともあり、個人的に聞く話は大変面白いのです。しかし父の講演や講義を聞いた限り、弁が立つとはとても言えず、学生の立場から見て授業は下手だと思いました。

7. 勝負事

競馬、パチンコはもとより、囲碁やマーじゃんは全くやらず、一度私と将棋の相手になってくれたことがありましたが、強いとは思えませんでした。

8. 趣味・スポーツ

ゴルフなどは全くやらず、運動会等で活躍したという話は知りません。趣味でも一般的な際立った趣味があったわけではありませんが、二つ思い浮かびます。

一つは植物採集で、中学五年の時にはそれを相当やっており、進学したら植物学の方に行こうかと思ったこともあったようです。

もう一つは動物の立体切り絵です。これは相当の腕前で、会合の余興になどでやっていました。戦争で玩具がなかった時、私にせがまれてよく切ってくれました切り絵は三十種類ぐらいになったのでしょうか。紙が欠乏していた時代、素材として高倉安次郎の事業倒産により無価値になった株券を使っていました。

9. 本と読書

学生時代、私は同級生から「お前のおやじさんは猥本なんか読むのか？」とよく聞かれたものです。

文献研究者ですから扱う書籍類も莫大で、書斎の床がぬけたぐらいです。多くの時間文献と向き合う暮しでして、趣味として読書をしている父を意識したことはありません。大衆雑誌を見ると『オール読物』ぐらいでした。したがって通俗的な卑猥な本はなかったのですが、「性文化」などを描き出した民俗学的な領域の相当きわどい本はありました。

10. 女性

父は「眼鏡美男」でしたので、持てたと思いますが「女性問題」は知る限り一切ありませんでした。しかし、郷土史研究で指導を受けに来る女性は少なからずいて、巷に噂が立ち母が神経をとがらせていたことは覚えています。

11. 経済観念と商才

商家で育ったのですが、経済的には鷹揚でお金に目端が利く方ではありませんでした。他方、父の葬儀は一学者の葬式ではなく、「実業家」の葬式だったのです。それは、父が今日の「COOPさっぽろ」の創設者だったからです。

そのきっかけは終戦後間もない頃、北海道大学の学生部長を務めていましたが、その当時の島学長から、「学生の福利厚生になるものが何一つないので、なんとかしてほしい」と言われて、学生生協を立ちあげたことです。

後にそれが大きな発展を見、それを基礎として今では全国有数の消費者生協となった「コープさっぽろ」を創設したのです。大きな金もうけにはならないけれど、これは「商売」の一端であり、先祖近江商人の商才を発揮したと言えないでしょうか。

12. ボランティア

新一郎は父安次郎に似て気前がいい方であり、ボランティア精神も旺盛でした。それが発揮されたのが、新渡戸稲造によって興された「札幌遠友夜学校」の場でした。そこで教員を務め、その名誉ある終焉に貢献しています。

13. 友人関係

私が知る限りでも交友関係はきわめて広いので、ほんの断片をお話するに止めます。

① 帯広時代の友人は帯広から札幌に出て来た同期や後輩から多数おり、分厚いものがありますが、中でも「加森観光」や「六花亭」の創設社長との親交を思い出します。



写真1 学生時代からの親友東 隆氏（右）とともに。北大農学部学生の1925（大正14）年頃



写真2 錚々たるメンバーの「コックリ会」の賑わい。新一郎は前列中央、左は妻とき（1982（昭和57）年）

② 札幌一中時代では、私にはとくに具体的な人の名が浮かんでこないのですが、札幌一中・南高の「六華同窓会」の役員を長年務めていることから交友はかなりあったのではないのでしょうか。

③ 北海道帝国大学学生時代では、農業経済学科の同級生、東 隆氏（後の右派社会党衆議院議員）との長年にわたる付き合いが特に印象的です（写真1）。

④ 北海道帝国大学助手・助教授時代では、農業経済学科の同僚であり、天下の秀才と謳われた荒又操氏がまず思い浮かびます（ご子息は私の経済学部先輩荒又重雄氏（公立釧路大学学長））。しかし、氏は病魔に襲われ早逝してしまわれました。

⑤ 世に出てからですが、これこそ収集がつきませんので二つに留めます。

一つは「狐狗狸会」（コックリ会）の結成です。父には河野広道氏、更科源蔵氏など多くの郷土史研究仲間がおりましたが、その有志が高倉新一郎宅に定期的集い「飲み会」をはじめたのが、「コックリ会」です。私はその時ご馳走の運び係でしたが、やがて外で開くようになり、北海道の「文化人サロン」的な存在となりました（写真2）。

もう一つは「桑園大学村」の「村会」です。私の住む現在地は、当時北海道帝国大学の教授が集中して居を構えていて「大学村」と称せられ、その一郭になぜか高倉安次郎が入り込んだのです。その当時から宮部金吾、高岡熊雄、半澤 洵などの大先生がたが定期的に「村会」を開いており、長い歴史を経て来たものです。父も学者になり、最新参、最年少の会員に加えていただきました。

ですから「交友関係」の中に入れるのはおこがましいかもしれません。

総合すると

以上まるで免糞のように脈略なくいろいろな角度から捉えてきましたが、それらをくくって言えば、あえて申し上げてみましょう。

一言でいえば、相当強健、強運の持主でそれに努力家とおおらかな性格が結び付いて人生を切り開いてきたということでしょうか。

高倉新一郎は研究者にありがちな蝟壺的専門家ではなく、広く周囲を見渡し行動して行くやり方が、社会に受け入れられたのだと思います。

それが、公職を見ても、大学界では北海学園大学をはじめ複数以上の大学の学長に押され、北海道大学でも三つ部局の部長を務めました。さらに北海道の組織でも北海道開拓記念館長、北海道地方労働委員長等、多くの「管理職」をなんとか無難に務めることができた要因でしょう。

「父の考え方」を強く感じた言葉がありますので、最後にお話しましょう。

私の結婚適齢期に、両親と結婚相手のことが話題となり、母は「恵まれない環境のもとで曲折ある人生を送って来た娘は家庭に入ってもギクシャクしがちでうまくいかない」と言ったところ、父は「そうゆう娘を幸せにしてやるのも人生だ！」といったことです。



「コックリ会」や「村会」が開かれていた高倉旧宅。現存、間もなく築100年（似鳥春瑠奈 絵、北海道アルバイト情報社、まち歩き Book より）

北海道大学の銀杏並木は、今年も見事に紅葉しました。10月最後の土日にはライトアップされ、大勢の観光客、市民の皆さままで賑わいました。



2018年10月29日 撮影 星野フサ

企画展示紹介

フローラ ヤポニカ 北海道植物画展

北海道大学総合博物館では、「フローラ ヤポニカ 北海道植物画展」が開催されています。

期間：2018年11月10日（土）～12月9日（日）

会場：北海道大学総合博物館 1階企画展示室

開館時間：10:00～17:00（月曜日休館）

協力：福澤 レイ・早川 尚

四季折々に野に咲く花々には素朴な魅力がある。良く晴れた7月の早朝に林道を通った私は、木々の間から朝日を浴びて凛々と美しく咲いているオオウバユリを目にした。美しい光景であった。いつか描きたいと思い、秋に種子を庭にまいた。7～8年して確かにオオウバユリが一輪咲いた。早速、花と向き合い描いてみた。香りも良くまさに至福の時であった。同じユリ科でもクロユリは小型で暗柴褐色の花を2～3個付け下向きに咲く、近寄るとひどい悪臭がする。各々の特徴を隅なく描こうと筆を運んでみた。

福澤レイ（日本植物画倶楽部・北海道植物画協会
さっぽろ植物画同好会代表）

北海道では、これぞ春という感じで、生えている場所にもよるが四月から咲き出し、エンゴサクもカタクリも淡い色合いである。エンゴサクは青系からピンク、紫、白までと様々です。カタクリは葉の色の変化やペタルの厚さでピンクの色が微妙にかわる。また描くときの咲き加減をどうするかがむずかしい花です。

描かれているどの植物も食されるということ、興奮ですが、春のはかない花、Spring ephemeralという素敵な名前があります

植物画を始めてない頃、ルドーテの花束のグリーティングカードを見てどのようにして描くのだろうかと思いました。

現在、植物画関係の本は、山ほど在りますが40年前はあっても印刷の良くない本しか手に入りませんでした。

今は植物画を楽しむ人にとって、幸せな時代だと思います。そして、上達のため必要なのは観察力と工夫、原画を見る事でしょうか。

早川 尚（北大植物園後援会・flos society代表
北海道美術協会（道展）会員・国画会会員）



オオバユリ



クロユリ



花束

活動報告

「元号」の由来

図書ボランティア 久末 進一

「平成」も30年を経て新元号に変わる件が取り沙汰されている折から、植物標本を挿んでいた押し葉作り古新聞の中に『大正の出典に就きて』（大正元年8月5日付「萬朝報」）の記事が見つかった。

『一諸新聞紙の掲載せる所を覧るに、或は易の「大亨以正 天之道也」とあるに據ると為す者もあり、或は公羊傳の「君子大居正」とあるに據ると為す者もありて、吾人浅學輩をして其の帰着に惑わしむる者あり』（原文）。この筆者は與謝の夢楽人（ペンネーム）。

改元されたばかりの「大正」元号由来に諸説あって、出典がいずれか博学の知識人が己の学識をひけらかして“学問試合”をしていたようだ。

明治天皇崩御に伴い、皇太子嘉仁親王が改元の詔書を公布。明治45（1912）年7月30日が即日大正元年7月30日となるが、この時、審議に当たった枢密顧問の間では、「大正」の他に天興、興化、永安、乾徳、昭徳の元号候補の案が競われたと伝えられる。結局、中国古典「易経」（四書五経の儒学経典）より、「大いに享を正すをもって天の道なり（天が民の言葉を嘉納し、政が正しく行われる）」から「大正」2文字が決定する。

これが大正15（1926）年12月25日大正天皇崩御まで続くことになり、大正10年11月25日以来、摂政官で天皇の名代だった裕仁親王が即日「昭和」天皇となった昭和元年12月25日から同じく「四書五経」の「書経」出典「百姓昭明、協和万邦（国民の平和と世界の共存繁栄を願う）」より「昭和」が始まる。そして昭和64（1989）年1月8日まで続き、昭和天皇崩御で即日「平成」の世となった。

その出典は「史記」（五帝本紀）より「内平外成（内平らかに外成る）」と「書経」より「地平天成（地平らかに天成る）」で、内外、天地ともに平和が達成される意味という。

逆に遡れば、明治天皇は慶応4年9月8日（旧暦）一世一元の^{みことり}詔を^{みことり}発し、一世一元の制を定

めるとともに「明治」と改元した。明治天皇が、多くの候補から自ら抽籤されて決められたと伝えられる出典は、「易経」の「聖人南面而聴天下 嚮明而治（聖人が北極星のように顔を南に向けてとどまることを知れば、天下は明るい方向に向かって治まる）」である。これは前越前藩主の松平春嶽（慶永）の勘案とされる。

ちなみに「慶応」は「慶雲^{まさ}応に輝くべし」（文選）、「文久」は「文武並用 成長久之計」（後漢書）、「安政」は「庶民安政 然後君子安位矣」（群書治要）といずれも出典は中国古典に拠る。

漢の武帝時代に誕生した元号は、「大化」（645-650年）以来、247を数える日本独特の年の数え方である。

昭和54（1979）年、政府は元号の選定手続きを定め、元号は国民の理想を象徴するもので、読み書きがわかりやすく、俗用されたものでなく、過去に用いられた例のない漢字2字であることとしている。

さて、「平成」の次はどんな元号になるのか。

「大正」出典に蘊蓄を傾けた夢楽人ならずとも興味の尽きないところである。願わくば戦乱も災害もない理想の時代となるような元号であってほしい。（「ウイキペディア」他ネット情報参照）



「萬朝報」の記事（大正元年8月5日付）

活動報告

むかわ町穂別博物館の被災状況の確認と骨格標本修復の試み

北海道大学理学院修士課程2年 太田 晶

2018年9月21日、胆振東部地震によるむかわ町穂別博物館の被災状況の調査・確認に向かいました。むかわ町は震源のほぼ直上に位置することから地震発生直後は町内の情報が得難い状況にありました。かつて大学院を休学してむかわ町で働いていた経験もあり、現地に行って何か手伝いができないかと思っていたのですが、闇雲に駆けつけたところでかえって迷惑をかけるのではないかという不安もあり、踏ん切りがつかない日々が続いていました。そんな中、穂別博物館のクビナガリュウ化石を研究している東京学芸大学の佐藤たまき准教授からお声掛けいただき、穂別博物館の状況確認に同行させていただくことになりました。

地震発生直後の館内の様子は穂別博物館の「ホッピーだより」No. 407にて詳しく紹介されているように、一部の展示物が転倒・破損したり館内の書籍が散乱したりしたものの、ホベツアラキリュウやむかわ竜をはじめほとんどの収蔵資料、また建物自体には大きな被害はなかったそうです。私たちが到着した頃には、穂別博物館はほとんど地震の前とほとんど変わらない様子になっていました。そこで私たちは、当初想定していた化石標本の修復ではなく、大きな被害を受けた現生動物骨格標本の一つであるゴマフアザラシ骨格標本の修復を試みました。この標本は展示台に設置されていたのですが、地震によって落下・破損してしまいました（職員の方のお話によると、その上に展示されていたミンククジラ頭骨の落下に巻き込まれたのかもしれない、とのことでした）。

一目みてわかる被害としては、肋骨と椎体との接着部分が折れ、多数の肋骨が脱落していました。また頭骨は眼窩壁や左側頭部が割れていました。幸いにも肋骨はバネを介して胸骨と繋がっており元々の順序が保たれていたため、露出していた接着部の芯材に被せる形で元の位置を特定することができました。頭骨については破損した部分と骨

片の形状を見比べ、一致するものは接着していききました。

更に被災以前に撮影された写真と比較してみると、前述の被害に加え脊椎に通した支柱が衝撃によって歪んでいること、肩甲骨～前足と肋骨、寛骨と後足の接着部が破損し辛うじて繋がっていることがわかりました。脊椎の歪みは支柱にゆっくりと力をかけて逆方向に曲げることによって復元できました。破損した前足、後足は共に重量があり、瞬間接着剤では支えきれないと予想されたため、この場では処置をせずにおきました。

5時間ほどの作業時間で脊椎の歪みを直し、肋骨を元の位置に戻し、前足の位置に見当をつけ、頭骨の割れた部分も一部修復できました。作業前と比べるとかなり元の姿に近づけることができました。

穂別博物館は9月30日から再開しました。後日博物館の櫻井和彦館長から頂いたご連絡によれば、このゴマフアザラシ標本は中村正彦学芸補助員による修復作業を経て10月12日には常設展示に戻されたとのことでした。私たちの修復作業が、ゴマフアザラシの展示復帰を少しでも早めることができたなら幸いです。



ゴマフアザラシ骨格標本の修復中の筆者（右）

活動報告

“牛飼いが歌よむ時に世の中の新しき歌大いにおこる”

北大第2農場ボランティア 稲場 良雄

秋が深まった頃、ある中学校の生徒が課外研修で第2農場にやって来た。私が担当したグループは18名位であったと思う。農場や各建物の説明も終了しかけた時、試みに作った歌を簡単に説明し、一緒に唱ってみようと提案、楽譜を渡した。ほとんどの生徒がすぐ歌えたことに驚き、協調性も持ち合わせているのも嬉しかった。彼らを見てみると新しい明日が来ることに期待できそうだ。そして歌の力も感じた。このワークのメロディーの選定に間違いなかったと意を強くした。

なぜ、私が歌を作ることを思い立ったのか？

それは、ガイドをすることになった時に遡る。漠然と酪農に関する本を何冊か読めば何とかなるだろう、と気楽に考え図書館に行き目当ての本を読むのだが何冊読んでも頭に残らない。年のせい、いや自分の記憶力のせいかと思っただが、数日後に迫るガイドツアーのために要点をノートに取り、自分流のガイドブックを作ることにした。

それから数か月たったある日のこと、あの時読んだ本の中にあつた表題の伊藤左千夫の歌をなぜか思い出した。歌の力を信じて、(牛飼いではないが)牛小屋のガイドツアーのために歌を作ってみることにした。農場とクラーク精神が描ければと思っただが難しい。歌詞はできたが曲が浮かんでこないで、思い切って「借曲」(一般的には「替え歌」という)することにした。

①誰でも知っている ②歌いやすい ③クラーク精神が感じられるもの、の三つの条件を満たすものとした。そしていくつかの中から選んだのがワーク(H. C. Work)作曲の「My Grandfather's Clock」である。この曲は1876年に発表され、100万部以上の楽譜が売れた。作曲者が奴隷制度廃止運動家の家庭で育ったことなどがリンカーンの奴隷解放の呼びかけに呼応し、出征したと言われているクラーク博士の考えにも重なり、博士が来日した年に作られた曲に因縁さえ感じられる。

日本では、保富康午訳詞による「大きな古時計」

♪クラーク博士の家畜小屋♪

クラーク博士が考えた大きな家畜小屋
北海道の未来のために、作るときめたのさ
ホイラー先生設計をして、職人たちが作った
北大第2農場のモデルバーンのことさ
1877年見事に建った
雨ニモ風ニモ雪ニモ負ケズ
今も頑張つて立っている、酪農発展のために

クラーク博士がアメリカに帰る事になった
学生達は馬に乗って島松まで送った
あの日みんな涙で聞いたお別れの言葉は
今では誰でも知っているあの言葉だったのさ
Boys, be Ambitious!
大志を抱け! 何時でも誰でも、
Boys, be Ambitious!
人がかわり、時代がかわっても
Be Ambitious Forever.

「大きな古時計」

作曲 H. C. Work



として「NHK みんなのうた」で紹介され、その後、小、中学校の教材で扱われ、多くの人を知る歌となった。

北大第2農場には、国内外を問わず色々な人が来る。ガイドとして伝えることの必須項目の何時、何処で、誰がのいわゆる「5W1H」が来場者に「理解」「納得」が得られるように話すことができたか、「面白い」「少し役に立つ」と喜んでもらえたか、といつも自分に問うている。

北大第2農場は雪が降り、眠りに入った。春になるとキバナノアマナ、エゾエンゴサク等の草花がいつせいに咲く。140年以上も前にクラーク博士の弟子たちが夢を育てたこの場所へ、皆さんも是非足を運んでください。

活動報告

水辺の昆虫ミニ展示

昆虫ボランティア 山本 ひとみ

博物館に収蔵されている昆虫標本 250 万点の中には、多くの水生昆虫が含まれています。標本整理の目標を定めて活動をすると、よりメリハリが達成感があるのではないかと考えました。

収蔵標本の中でも特に興味のある水生昆虫を整理し、データベース登録などを行っていくことを目的に、今年 3 月に 3 名で「水生昆虫グループ」を発足しました。

そんな折、「北海道 e-水プロジェクト」の助成金募集を知り、標本を通して北海道の水環境を考える活動ができるのではないかと考え、応募することにしました。応募・選考の結果、助成を受けることができ、4 月から本格的に活動を開始しました。

作業としては、①収蔵されている標本の中から北海道内で採集された水生昆虫標本を抽出すること、②抽出した標本を同定し分類別に整理すること、③同定した標本の種名、採集日などの情報をデータベース登録すること、④昆虫の種別に採集地マップを作成し、データの見える化をすること、⑤作業の成果を昆虫サロンで発表すること、⑥さらに成果をミニ展示で公開することです。

8 ヶ月間の活動のなかで、ミニ展示は、博物館を訪れた人たちに、北海道の水生昆虫について知ってもらいたいチャンスでした。しかし、同定作業やデータベース登録とは違い、一人で頑張ることができるものではありません。まずは、展示のコンセプトを考えました。とにかく標本を見てもらいたいという熱い思いはありましたが、展示に関して 3 人中 1 人は手伝ったことがあるレベル、2 人はまったく展示が初めてで、何から手をつけていけばいいのかもまったくわかりませんでした。そこで、展示を何度も手掛けていらっしゃる大原先生に何から手を付けていけばいいかを相談し、展示配置案や展示の構成、タイトルを考えていくことにしました。タイトルは、今まで活動してきたことそのもの「標本から見る北海道の水生昆虫」

とすんなり決まりました。展示配置案も場所が限られているので、展示ケースの設置場所や展示パネルの設置場所などは早々に決まりました。問題は、展示の構成です。これが決まれば、何を展示ケースに入れるか、どんなパネルが必要かわかるはずでした。

展示期間は 11 月 3 日から 11 日までの 9 日間でした。合計 9,414 人の入館者があり、その約 5 割の人が展示をみてくれたとすると、4,707 人の人に成果が伝わったこととなります。また北大総合博物館のホームページでの広報も行い、SNS での反響もありました。数人の昆虫研究者や自然愛好家が、この展示を目的に北大総合博物館を訪れてくれたこともありました。

特に札幌では絶滅をしてしまったであろう、シマゲンゴロウの「1936 年札幌」のレベルのついた標本の発見は、専門家を唸らすほどの成果だったようです。

ボランティアの地道な活動が、このような形で見える化され、展示という形で成果発表できたことは、とても有意義なプロジェクト活動だったと思います。

今後も、まずは北海道の水生昆虫のデータベース化を進め、博物館活動をサポートしていきたいと思っています。



ミニ展示「標本から見る北海道の水生昆虫」

活動報告

憩いの中庭を目指して～構内木材利用～

工学部建築学科4年 近藤 縁
農学院修士課程2年 星野 愛花里

北大の博物館は改修を経て、カフェやイベントスペースが整備されるなど、地域の活動拠点として重要な役割を担うようになりました。そこから取り残されるように存在を消していた中庭でも、博物館を利用する全ての人々の憩いの場となることを願い、人々が足を運びやすいような庭を目指して整備してきました。ボランティアグループ活動2年目にして、その成果が芽生え始めています。

その一つ目の取り組みがウッドチップを敷いた散策路です。庭は粘土のような黒土で、人が歩くには舗装が必要でした。去年の11月、農学部森林学科の玉井裕先生のご協力により、森林圃場にある伐採した木の枝をチップ状に碎き、今春から梅の木を囲うようなコースの手前側から徐々に敷いています。驚いたのは、一年も経たないうちに日陰の部分では菌類が繁殖しミズまで現れるという分解の進みぶりです。散策路の更新や土壌改善のためにこれからもチップを利用していききたいと思います。

また、建築学科の学生メンバーを中心にウッドデッキも製作中です。じつはこれらの材料も全て



森林圃場にてウッドチップを大量に生産

北大構内で使われなくなったものです。冬の間には室内で作業を進め、来春に披露する予定です。このように、多くの方々から材料、知識、加工手段等の協力を頂きながら整備を行っていきましたが、気付けば、構内にある木材資源の循環の一員になっていました。今後も、ベンチなどのその他の木工にも身近な材料をうまく使って作っていきたいと考えています。



ウッドデッキ完成予想図

活動報告

札幌市青少年科学館を訪問しました

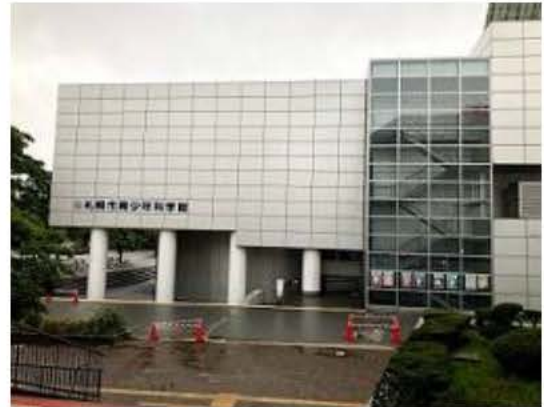
植物ボランティア 本多 丘人

当博物館ボランティアの会が企画している「博物館に押しかけよう会」第25回は9月17日、厚別区新札幌にある札幌市青少年科学館でした。北大総合博物館で植物ボランティアを始めて2年目の筆者は厚別区民でもあり、「そういえば科学館には子連れで何度か訪れたことはあるけれど20年以上は足を運んでいないな、どれどれ」と軽い気持ちで参加してみました。参加者は総勢12名。集合時間の10時には来そうな方々がそろい、案内役の手島駿さん（北大大学院理学院 博物館教育学研究室修士課程2年兼青少年科学館学芸員兼北大総博展示解説ボランティア）に導かれての入場となりました。

まず1階奥の会議室で簡単にブリーフィングを受けました。青少年科学館は1981（昭和56）年にできた市の施設で、その名のとおり青少年（やその昔青少年だった方々）に科学を学ぶ場として利用されてきました。札幌市教育委員会の所管であり、現在は公益財団法人・札幌市生涯学習振興財団が指定管理者となって運営されています。設立から35年以上も経ち、その間に展示物の更新や修理を毎年のように行ってきてはいるものの、予算が潤沢ではないためか、展示停止、使用停止となっているものも多いようです。また、この日は北海道胆振東部地震（9月6日）とそれに続いた大規模停電から日も浅かったので、復旧が遅れていた展示もありました。

さて、百聞は一見に如かず、説明もそこそこに、手島さんの解説に耳を傾けながら各階の展示を見て回りました。

2階には、ここにしかないといわれる人工降雪装置が設置されています。スキー場などで使われている人工降雪機は低温の圧縮空気と水とを混合して大気中に噴霧し、微細な水滴を凍らせて雪を作る仕組みだそうです。それだと大部分が球状のいわば氷滴になるとのこと。ここの人工降雪装置はそれとは異なり「雪は天から送られた手紙で



札幌市青少年科学館 （撮影 星野フサ）

ある」で有名な中谷宇吉郎博士が北大在職中に世界で初めて人工雪を作製したシステムに近い装置なので、ちゃんとさまざまな結晶の雪が空からしんしんと降ってくる様子を観察することができるのだそうです。しかし駆け足見学のわれわれには時間がなく、次に進まなければなりません。

青少年科学館は物理系の展示が多いのが特徴です。展示といっても、光・音・力・電気などの性質・現象・原理が体験できるように工夫されている来場者参加型・体験型のものが多いので、さまざまな装置や品物を見て触って動かしてみるのがここでの楽しみ方ようです。2階、3階にはそのような装置がたくさんあり、休日だったせいか多くの子どもたちが体を使って学んで（遊んで）いました。天文・地球科学コーナー、環境コーナー、力学コーナー、ロボットコーナーなど、ある程度系統的にまとまって配置されていて、子どもには遊園地のようなものかもしれません。けれども、おじさんお婆さん（われわれ）にとっては遊びながら学ぶのは簡単ではありません。見ることには慣れていても、装置や機械を触ってみる、操作してみるといった経験があまりないためと思われる。子どもたちがいたのでつい遠慮してしまった感もあります。実際、子どもたちとともに来ていた親たちでさえ、眺めているだけの人が多いようでした。

3階ではちょうどサイエンスショー(1日3回実施)をやっていました。色のついた溶液Aに溶液Bを混ぜると色が消えて透明になり、さらに溶液Cを加えるとあら不思議、今度は別の色に、といった楽しいデモ。手品のようなものです。見ていた子どもたちにその理屈はわかるはずもなく、不思議だな、なんだか面白いなと思ってもらうことがショーの狙いなのでしょう。不思議だな→どうしてそうなるの→勉強してみよう、研究してみようとなればいいですね。先日ノーベル医学生理学賞受賞が決まった本庶佑博士は「教科書を信じるな」と言っていました。まず、体験を通して「どうしてそうなのか、どうしてそうなるのか、本当にそうなのか」という知的好奇心を持つことが科学する心につながります。このような「科学する心」は大人にもあるはずですが、まず子どもたち、青年たちの前途洋々の未来に期待してきっかけをつくるのが青少年科学館の役割のようです。大人が行ってもそれなりに楽しめますけど。

山崎直子宇宙飛行士コーナーもありました。山崎直子さんは2010年にスペースシャトル(懐かしい)でISS(国際宇宙ステーション)に行った宇宙飛行士で、幼少期に札幌に住んでいた縁で青少年科学館の名誉館長になっているのだそうです。宇宙ステーションに持ち込んだ物や被服など、見るだけの展示物ばかりなので、こちらは筆者にも抵抗感なしでした。

駆け足見学の帰り際、入口近くにフーコーの振り子が設置されているのに気づきました。地球の自転を目で確認できる装置です。だいぶ前、初めて東京・上野の国立科学博物館でお目にかかった、筆者にはおなじみのただの大きな振り子です。1時間見ても10度の角度しか方向が変わらないので地球の自転を実感するためには相当の時間がかかります。北大総合博物館でもそうですが、

展示物をちゃんと見るためにはそれなりの時間をかけなければなりません。そして何度も訪れることで新たな気づきも出てくるものです。

植物ボランティアの筆者には生物系や化学系の展示や装置がほとんどないのがいくらか残念に思えました。しかしそちらは野幌森林公園内にある北海道博物館(道立)や北大総合博物館の方にお任せする、ということなのでしょうね。

今、青少年科学館では今年の春にリニューアルしたプラネタリウムが売りになっています。この装置、星の数は1億個といますから大したものです。筆者は別の用事のため残念ながらこの日に観ることはできませんでしたが、押しかけよう会の一部の方々は午後から楽しんだようです。プラネタリウムは専門家が装置の管理やプログラムづくり、解説にあたっているので楽しく正しい知識が得られるのだと思います。科学館の展示でもいろいろな分野に専門家が配置されていればさらに充実するのに、と感じた押しかけよう会でした。

青少年科学館では通常は展示解説を行っていません。しかし今回は北大総合博物館の湯浅万紀子教授の計らいで手島さんに懇切丁寧な解説をしていただくことができました。ありがたいことです。



押しかけた北大総合博物館ボランティアの会の面々(前列左端は案内をしてくださった手島さん、後列右端は筆者)

北海道大学総合博物館 ボランティア ニュース No. 51 号

- ◆編集人：北海道大学総合博物館ボランティアの会(編集委員：星野、今井、大山、沼田、久末、山岸)
- ◆発行人：在田一則
- ◆発行日：2018年12月1日
- ◆連絡先：〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 Tel: 011-706-2658
- ◆ボランティア ニュースは、博物館のホームページからもご覧になれます。
<https://www.museum.hokudai.ac.jp/lifelongeducation/volunteer/volunteernews/>